◆水明インターネット句会◆

令和八年六月

1	温泉でながす卓球やりしいい汗を	
2	叱られて麦藁帽も泣いてをり	
3	燕行く一休みする子を掠め	
4	つぶやきが聞こゆる間なり蛍道	
5	初蛍とび跳ね指して追いかけて	
6	手を握りにぎり返され蛍の夜	
7	浮ばぬ句アイスコーヒーを二口	
8	蛇苺帰らぬ昔気にとめず	
9	二反歩のアカザのはやし休耕地	
10	夏祭り運気アップの千社札	
11	あご飛んで光る海へと舵を切る	
12	卯月波マンタ眠れぬ夜つづく	
13	羅や経読む僧の喉ぼとけ	
14	風薫るリハビリ室の笑い声	
15	遠き父今も敵わぬ草の笛	
16	梅雨晴や緋の蛇の目傘神前へ	
17	ブラウスの色清々し初夏の風	
18	強がりは父の血筋や蟇蛙	
19	夕立や確と揺るがぬ閻魔堂	
20	新緑や湯面に揺るる枝の影	

◆水明インターネット句会◆　令和八年六月

21	青嵐ふるさとの空広々と	
22	梅雨深し花屋の窓に色滲む	
23	荒ぶ世や空低くして梅雨に入る	
24	処方箋のどれがどれやら走り梅雨	
25	ひよこの瞳（め）裸灯浮かべ夜店かな	
26	梅雨さ中総理に涙禁じ得ず	
27	サングラスを外し入りゆく検診車	
28	泥を吐く無実のナマズ桶の中	
29	手のひらを少し窪ませ雨蛙	
30	一人には広き家なり心太	
31	こめかみを襲う一撃かき氷	
32	彼の人の胸中想ふ梅雨の月	
33	大植田激しき雨を受け流す	
34	新しき紫陽花浮かぶ手水鉢	
35	キュウリ髭ネットに巻いて梅雨に入る	
36	丁半で決めよトランプ水喧嘩	
37	若竹や石段降りて水を見る	
38	ナフサ由来の袋の乱舞青嵐	
39	北国の気動列車や麦の秋	
40	熊蜂や観音の頬に止まりをり	

◆水明インターネット句会◆　令和八年六月

41	高原列車にも卯花腐しかな	
42	夏シャツの裾引かれつつ出勤す	
43	糠落す君の白い手なすび漬	
44	更衣タンス２段目女文字	
45	湘南をいま席巻す貝風鈴	
46	そっとあく君の手のゆび蛍飛ぶ	
47	ねずみもち匂いし道や楚々として	
48	麦秋やゴッホの糸杉天を衝く	
49	パステルの雨に昏れゆく額の花	
50	しばらくはキッスの余韻ソーダ水	
51	初めての父の日欲しいのはギュッ	
52	草笛や母を泣かせし日の記憶	
53	うすものに透くる庵主の気色かな	
54	梅雨寒や持病の二人労りて	
55	天瓜粉丸ごといのちの重さかな	
56	駅前の釣堀をゆく六月の風	
57	諸寺より晩鐘わたる薄暑かな	
58	見逃すな運は目の下木下闇	
59	蒼天に一太刀浴びせん夏燕	
60	人の世の憂ひを知らず額の花	

◆水明インターネット句会◆

令和八年六月

61	若葉風軽き足音古書店へ	
62	白から碧に更衣ひたり富士の山	
63	並ばずに列は目くばせ夏のバス	
64	この話長くなりさう木下闇	
65	ボウフラは蚊になる人は爺になる	
66	搭乗の女見送る夏の霧	
67	朝焼けや始発列車を待つホーム	
68	どぜう鍋足の向く手の縄暖簾	
69	こんな日は人間失格桜桃忌	
70	退院の妻のスリッパ揃へ夏	
71	回廊や短冊かかる江戸風鈴	
72	何もかも止めて日曜梅雨に入る	
73	若衆の男つぷりや夏祭	
74	めまとひの集団土が爪に入る	
75	父の日や交わることなき双曲線	
76	地下足袋にじんじんばしょり田草取	
77		
78		
79		
80		